



2月18日 日曜日 発行所 山陽新聞社 岡山市北区柳町2-1-1 新聞製作センター 岡山市北区新屋敷町1-1-18

# カット野菜用生産拡大

食材加工・卸の倉敷青果荷受組合（倉敷市西中新田）のグループ会社で、農業法人のクラカアグリ（同所）は、耕作放棄地や遊休農地を活用し、カット野菜向け作物の生産拡大に乗り出す。2019年度までに栽培面積を約3倍の15畝程度に広げ、カット野菜の需要増に対応。農地の荒廃を抑え、地域農業の振興につなげる狙いもある。

（水野雅文）

## クラカアグリ

カット野菜は、栽培契約を結んだ生産者から直接野菜を仕入れるため、5畝で加工用のキャベツ年間を通じて価格が安定しているのが特徴。調理し、カット野菜が主力の時間を短縮したい単身や共働き世帯の増加に加え、昨秋からの天候不良や急激な冷え込みによる野菜価格の高騰を受け、小売りや外食業者などからの需要が高まっている。今月から新たに倉敷市内の計3畝でも栽培を開

## 栽培面積3倍に 放棄地や遊休地活用



クラカアグリが倉敷市内に整備している農地

始。今後は既存の農地に近い土地を順次確保し、19年度までに計15・3畝を導

始めるほか、店頭に並ぶキャベツやレタスよりサイズの大きい品種を取り入れるなどして面積当たりの収穫量も高め、年間の生産計画を17年度の108トから565トに引き上げる。従業員も新たに10人程度を雇用する。

農地はいずれも岡山県農地中間管理機構（農地バンク）を通じ、高齢化や担い手の不在で作付けできなくなった農家から水田を賃借。雑草を除去して排水効率を上げる処理を施すなどして、野菜栽培に適した農地に再生する。 富本尚作社長は「県内で生産することで流通コストを抑えられる。地元

の総業者などからも引き合いが多い県産野菜の割合を高めつつ、農業が抱える課題解決に貢献したい」と話している。